# 吾妻中央高等学校　学校評価一覧表①　（令和２年度版）

（様式1）

| 羅針盤 | | | 方　策 | 第１回　点検・評価 | | | | 第２回　点検・評価 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 評価対象 | 評価項目 | 具体的数値項目 | | 自己評価 | 外部アンケート等 | 改　善　策 | | 自己評価 | 外部アンケート等 | 改　善　策 |
| Ⅰ　特色ある学校づくりに努めていますか。 | １　生徒が主体的に学び、充実した学校生活ができるような教育活動を行っていますか。 | ①　一連の学習活動（課題設定・調査研究・まとめ・発表等）に、主体的に取り組んだと自己評価している生徒が75%以上である。 | ①　「課題研究」「総合的な学習（探究）の時間」「キャリア教育」等を通して、自らの在り方を意識させながら課題解決に取り組ませ、将来にわたり課題を発見し解決していく能力を養う。 | B | A | 「課題研究」「総合的な学習（探究）の時間」とも、主体的に取り組んでいる生徒はいずれの学年・学科においても８０%を超えており、課題設定・解決の学習が実践されていると考えられる。一方、学校生活に対して課題意識を持っている生徒は４０～６０%程度と、昨年度よりは向上する傾向が見られた。「課題研究」や「総合的な学習（探究）の時間」のさらなる充実を図るべく、教科を横断した教育活動の実践に取り組んでいきたい。 | B | A | 前回に引き続き、「課題研究」「総合的な学習（探究）の時間」とも、主体的に取り組んでいる生徒はいずれの学年・学科においても８０%を超えており、課題設定・解決の学習が実践されていると考えられる。一方、学校生活に対して課題意識を持っている生徒は、４５～５６%と前回よりもやや低くなる傾向も見られた。生徒の主体性を伸ばすための教育の実践と、実生活に生かせる働きかけを今後とも継続したい。 |
| | | ②　本校の教育活動にやりがいを感じている生徒の割合は、80%以上である。 | ②　本校を志望した理由や生徒の課題意識を的確に把握し、きめ細かな指導を行う。また、生徒が学校生活で感じる満足感の過不足を明確にし、学校行事や授業等でも主体的な取り組みとなるように内容を工夫し、充実した教育活動を行う。 | C | C | 本校の教育活動にやりがいを感じる生徒の割合は、約６０%にとどまった。現時点での本校の教育活動が、生徒にとって魅力ある活動になっていないことも考えられるが、新型コロナウイルス感染症対策による、教育活動や部活動等の制限が今回の回答にどのように影響をしているのかという部分は、今後の検証が必要となる。いずれにしても魅力ある教育活動となるように工夫をしていきたい。 | C | C | 本校の教育活動にやりがいを感じる生徒の割合は、今回も約６０%であったが、各学年とも「ある」と回答した生徒は各学年ともわずかに減少し、「どちらともいえない」が増加していた。第１回同様、新型コロナウイルス感染症対策による教育活動の制限は、すべてとは言えないものの、大きな要因と考えられる。今後の感染症の動向にもよるが、魅力ある教育活動を目指し、検討を進めていきたい。 |
| | ２　資格取得に積極的に取り組んでいますか。 | ③　普通科では、基礎学力向上のため、各種資格検定等の受検を積極的に呼びかけ、漢検および英検それぞれ２級合格者１０名、準２級合格者２０名以上を目標とする。 | ③　社会に出ても有用な資格であることや、教科の実力を向上させる上で有効であることを授業等で紹介する。また合格に向けた指導を充実させ、粘り強く取り組む態度を育む。 | C | C | 英検2級1名、準2級3名、漢検2級3名、準2級5名の合格者であったが、コロナ渦のため英検は三年生のみの受験であった。第2回以降は両検定とも全学年対象となるので、合格者の上積みをめざしたい。英検は大学入試（共通テスト）での民間試験採用はなくなったが、推薦入試や大学によっては資格を持つことでそれが合否の判断材料になることもあるので、積極的参加と合格者増加をめざして指導していきたいと考えている。 | C | C | 国語科では2月に、1年生全員に漢字検定受検をさせる予定で、これはまだ実施されておらず、最終的な結果は学年末にならないと判明しない。おそらく目標値の半分ほどの達成率になると思われるが、目標は高く設定し、それを目指す姿勢は今後も大事にしていきたい。英検もチャレンジする生徒は増えているが、合格まであと一歩の生徒もおり、狙った級を合格できるような高い学力養成と個別指導（面接）が必要と考える。そのための指導をより強化し、目標値達成に近づけたい。 |
| | | ④　生物生産科では、年間１つ以上の資格の取得を目指し、卒業までに３つ以上の資格を取得することを目標とする。 | ④　資格取得が進路の選択や実現につながることを理解させるだけではなく、担任や教科担当などと連携して動機づけに努め、資格取得の指導に取り組む。また、学科に関わる資格だけでなく、他の資格取得についても積極的に取得できるように指導する。 | B | B | ２・３年生では、農業技術検定やＦＦＪ検定など農業に関する資格だけではなく、漢字検定や英語検定など様々な資格に挑戦させることができた。そのため、2年生では31%、3年生では５０%の生徒が3つ以上の資格を取得している。一方で、1年生では2ヶ月間の臨時休業や資格取得の中止などにより、９７%が１つも取得していない。資格を取得した生徒はさらに次の資格を目指す傾向があるので、今後も指導の充実に努めたい。 | B | B | 目標の達成状況を見ると、３年生では５０%（８７%）、２年生では４５%（５１%）、１年生では９%（０%）であった。なお、（　）内の数値は昨年度の割合である。これを数値を見ると、昨年度より、２・３年生は減少している。しかし、今度は新型コロナウイルス感染症の関係で、一部の検定が中止になっていることが考えられる。また、アンケート集計後に１年生が全員受験する農業や情報関係の検定結果がわかるため、１年次終了時にはこの割合は増えると考えられる。しかし、生徒のスキルアップや進路実現の観点から、より多くの資格の取得が求められているため、今後も更なる指導の充実を目指したい。 |
| | | ⑤　１年生は年度内に資格を２つ以上取得する。2年生は年度内に資格を２つ以上取得し、学年で測量士補と2級土木施工管理技術検定の合格率をそれぞれ５０%とする。3年生は測量士の合格者を1名以上とし、測量士補と2級土木施工管理技術検定の両方を保有している者の割合を５０%以上とする。 | ⑤測量国家試験と2級土木施工管理技術検定の取得の意義を理解させ、主体的に資格試験に挑戦するよう指導する。また、普段の授業の質を向上させ実践的な内容とするよう学科内で意識を統一する。対策補習については、classi等教育支援アプリケーションを活用するなど、計画的且つ効率的に実施する。 | B | B | 測量国家試験は、受験日を来年度へ変更した。2年生の2級土木施工管理技術検定の合格率５０%を目指し指導を工夫したい。また、9月以降の資格検定については、情報の収集に努め適切に実施していきたい。休校中の生徒に対してclassi等教育支援アプリケーションの使用による支援ができた。課題もあるが今後も有効活用していきたい。 | C | B | 1年生で目標を達成した生徒は10%であり昨年と比べ55ポイントと大きく減少した。しかし、3月中旬頃まで資格試験に挑戦する生徒もいるので期待したい。2年生では地方の目標達成率が90%を超え、昨年と比べても20ポイント以上上昇した。来年度の測量国家試験に向けて期待のできる結果となった。3年生では測量士の合格者を出すことができず、また、測量士補と2級土木施工管理技術検定の両方を保有している者の割合も37%と目標に届かなかった。今年度は多くの資格試験が延期・中止となり、例年のように計画的に試験対策ができなかったことが残念である。 |
| | | ⑥　福祉科では、介護福祉士国家試験の合格率９０%以上を目標とする。 | ⑥　毎日課題を継続的に行い、基礎知識の定着を図る。放課後や長期休業中の補習を計画的に実施する。また、定期的に模試や個別面談を行い、個に応じた指導を行う。 | B | B | 毎日課題をClassiで配信し、生徒がより学習しやすい環境づくりを行った。また、９月より模試の結果が低い生徒を対象に、担当の教員をつけて補講を実施している。今後は、補習の回数を増やすとともに、個別面談を実施し知識の定着を図れるよう指導していきたい。 | B | B | 放課後や冬期休業中に補習を実施するとともに、模擬試験を行い生徒の知識の定着を図った。また、放課後補習後に学校に残り勉強を行う生徒も多く、勉強を行う習慣づけができた。１月に実施した模擬試験では、ほとんどの生徒が昨年の合格点数を超えることができた。 |
| | ３　地域の小・中学校や企業・団体と連携していますか。 | ⑦　３学科の特長を活かした交流活動や実習、地域等との連携については、実施可能であれば感染症対策に留意して実施する。 | ⑦　農業体験学習、奉仕的体験活動、現場実習、農産物等販売、交流活動、職業人や外部講師による授業・実習が可能な場合実施していく。 | C | C | 1学期は学校休業、その後も感染症拡大防止の観点から、交流・連携活動は自粛されてきた。夏休みから2学期に入る中で、条件の緩和もありインターンシップや交流活動が再開され始めたので、今後も限定的ではあるができる範囲で連携等を進めていきたい。 | C | C | 休業後、感染状況の緩和により高山中学校や渋川西小との華花交流、中之条町ふるさと灯りの会などとの交流活動、農産物販売体験などは厳しい条件下で最小限度の範囲で実施できたことは良かったと考える。<br>感染症の収束を待たないと、ふれあい動物交流やインターンシップなどの実施はなかなか厳しい状況である。 |
| Ⅱ　生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。 | ４　生徒の実態に応じた指導を行っていますか。 | ⑧　各学科における生徒の実態を踏まえて、到達度を見通すことができる学習指導を実施し、学習に対する達成感・満足感をもっている生徒が65%以上である。 | ⑧　生徒の実態に応じた授業展開・クラス編成をさらに工夫し、生徒一人一人に各教科・科目の基礎・基本を身につけさせる。資格取得・検定や進学に対応した補習も、放課後や長期休業等を利用して充実させる。 | C | B | 本校の生徒で、学校での学習に対し、達成感・満足感を持っている者は、６３．６%であった。昨年度（６６．３%）よりやや低下している。コロナ感染症対策を考慮しながら、各教科で授業展開を工夫し、個々の目標や資格試験・検定などの取得にさらに意欲的に取り組めるよう指導していきたい。 | C | B | 本校の生徒で、学校での学習に対し、達成感・満足感を持っている者は、６０．６%であった。第一回アンケートと比較するとやや低下している。引き続き各教科で授業展開を工夫し、生徒が意欲的に取る組めるよう指導していきたい。 |
| | ５　生徒は確かな学力を身に付けていますか。 | ⑨　単位未修得者の割合は、全体の3%以下である。 | ⑨　日頃から生徒の実態を把握し、学期毎に補習・追試験を実施する。定期試験のみならず、課題・提出物・授業中の態度等により、生徒を多角的・多面的に評価し、個々の学力の定着を確認する。 | B | - | １学期終了時点で、成績不振者（１学期の成績で「１」がついた者）が３．６%だったが、夏休み中の追試や補習などの指導で、１．９%にまで減った。今後も単位未習得者を無くすよう指導していきたい。 | B | B | ２学期終了時点で、成績不振者（２学期の成績で「１」がついた者）が５．２%であった。１学期よりやや増加傾向になったが、冬季休業の追試や補講などの指導で、０．３%にまで減った。今後も単位未習得者を無くすよう指導していきたい。 |
| Ⅲ　生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。 | ６　組織的・継続的な指導 を行っていますか。 | ⑩　いじめ・問題行動の未然防止に努める。また、発生したときには、迅速な対応を行う。いじめに関しては、解消率を高められるよう目指す。 | ⑩　常に生徒観察を行い、定期的に注意喚起を行う。また、二者・三者面談や学期毎の必要に応じたアンケート調査を行い未然防止や早期発見に努める。発生後は、被害者の心のケアにも努める。 | B | B | コロナの関係で最近になり、ようやくクラスや校内での人間関係ができてきたように感じる。多くの先生方の協力により、就職のおかしい生徒に関しては早い段階で声かけやスクールカウンセラーに繋ぐことができ、教師間での対応もできている。情報共有もしっかりと行われている。 | B | B | 学年主任・担任の先生方を中心に生徒の観察をおこない、また情報の共有を密に行えていることで大きな問題になる前に対応ができていた。様子のおかしい生徒に関しては早い段階でスクールカウンセラーに繋ぐことができ対応ができていた。時にはスクールカウンセラーとの時間調整ができなく対応に困ったこともあったので今後、検討していきたい。 |
| | ７　学校はいじめの防止や早期発見向けた取組を積極的に行っていますか。 | ⑪　生徒会や風紀委員の生徒を中心に活動を行うことで、じめの未然防止に関して全校生徒の意識を高め、いじめのない学校づくりを目指す。また、講習会を行い意識を高める。 | ⑪　風紀指導時やマナーアップ運動時に校門や駅前でのぼり旗を掲示した運動を行い生徒に訴える。また、生徒会新聞等を活用しいじめ未然防止に繋げる。SNSに関する講習会を開きSNSからのいじめが発生していることも改めて周知する。 | B | B | コロナの関係で生徒会や生徒中心の活動が行えていないが、生徒会新聞等の発行に向けて活動を行っている。また、ＳＮＳに関わる講演会を行い、生徒の意識も高まっているように感じる。コロナの様子を見ながら今後の活動の検討を行い、できるだけ生徒への情報発信ができるように努めていきたい。 | C | C | コロナ渦での生徒会の活動等が制限されただめ思うような活動が行うことができなく、生徒に対して予防の発信ができなかった。その中でも、警戒レベルが下がったところで救人の生徒代表と活動を行った。また、全体で集まっての集会ができなかった為、一斉放送やクラッシー等を使い情報の発信をおこなった。 |
| | ８　生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。 | ⑫　スマホやＰＣの適切な活用方法を意識している生徒が８０%以上である。定期健診の再受診の未受診率を３０%未満にする。 | ⑫　専門機関のネット依存チェックリスト等を活用し、利用時間の短縮などを意識させる。生徒会と連携しスマホ等の使い方のルールを啓発する。保健だより等で健康管理についての情報を発信したり、保護者と連携して再受診を促す個別面談を実施したりする。 | B | B | 朝食の摂取については、９０%以上の達成率で、手洗いの習慣についても、８０%程度の生徒が出来ていることから、ほぼ達成できてると評価したい。しかし、インターネット等の利用については学年が上がるに従って、達成率が少しずつ下がっている傾向がある。基本的な生活習の確立が健康管理やスマホ依存の抑制となるように生徒保健委員会を通じて地道に発信していく予定である。定期検診については２学期以降の実施の予定で、評価できず。 | C | C | 朝食の摂取については、９０%以上の達成率で、手洗いの習慣についても、９３%程度の生徒が学校内では きちんと出来ていることから、達成できてると高く評価できる。しかし、インターネット等の利用については3時間未満の生徒が3学年平均で約６５%、４時間以上が３割弱いるという結果になった。生徒保健委員会を通じて地道に発信しているが、引き続きスマホへの依存を意識するように働きかけたい。ただ、今年度は生徒はコロナ禍での家庭学習を余儀なくされ、学校と生徒や保護者間での情報の共有や連絡事項にスマホ等を使用する頻度が増し、一概に利用時間の増加をスマホ依存と指摘できない面もある。なお、定期検診については アンケートが未実施のため評価できないため、次年度の課題としたい。 |
| Ⅳ　生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。 | ９　計画的な進路指導を行っていますか。 | ⑬　普通科では、自らの生き方と望ましい職業観を育成するとともに、主体的に進路選択ができる力を育成する。<br>専門学科では、農業、建設土木、介護福祉分野への理解を深め、各科で学んだ知識や技能を生かした就職先や進学先を選択できるよう指導する。また、関係業界と連携したキャリア教育を充実させる。 | ⑬　１年次は職業レディネステストにより、職業理解と自己理解を深める。２年次は一般職業適性検査により、職業理解と自己理解をさらに深める。普通科ではキャリア教育の充実、オープンキャンパスへの参加、模擬試験の結果等を進路指導に反映させる。専門学科では、各科の特色に応じたキャリア学習を行い各分野への興味や関心を高める。全学科とも進路ガイダンス等をとおして上級学校についての理解を深め、さらに長・短インターンシップ、デュアルシステム等を体験させ実効性のある勤労観や職業観を育成する。 | C | C | １，２年生はレディネステストや一般職業適性検査ではなく他のテストで代用した。3年生は内田クレペリン検査を予定通り実施した。進路希望調査については スタディサポート、基礎力診断テストやクラッシーを使って対応した。コロナ感染症対策のため、オープンキャンパスは参加を推奨しなかった。インターンシップは環境工学科のみ１日間実施した。進路ガイダンスは３密を避けるため学年毎の実施となった。２，３年生は既に実施したが、１年生も今後実施する予定である。オープンキャンパス等の制限もあり校内で行う進路ガイダンスは有効な手段である。 | A | B | オープンキャンパスはコロナウイルス感染症の再拡大により、実質的に参加を見送らざるをえない。代わりに、リモートでの参加やホームページ閲覧等が現実的な選択肢となっているが、対面での説明会も感染症対策を行って学年毎に実施する予定である。学年を追うごとに進路ガイダンス等への満足度が上昇していることが調査で明らかとなっており、進路意識高揚には欠かせないことは判然としているためである。 |
| | １０　生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。 | ⑭　美槻プランにおいて、ポートフォリオ、フォーサイト手帳を活用して進路実現に取り組む。大学入試改革に対応するため、１，２年生の進学希望者にクラッシーを利用しe-ポートフォリオ作成を行わせる。 | ⑭　キャリア教育推進委員会と協力してポートフォリオへの取り組みの充実を図る。フォーサイト手帳を使って振り返りや、PDCAサイクルで探究的学習への充実感を高める。 | C | C | コロナ感染症対策に伴う学習支援のためクラッシーを全学年全学科で導入した。ネットが繋がりにくい状況が続き生徒の利用状況への影響は避けられなかった。職員は全員が研修を受けて基本的な活用方法を学んだ。ポートフォリオの作成に繋がっていくものである。 | B | B | 通常登校後は、クラッシーの活用頻度は減少したと思われるが、生徒への情報提供等に依然として有用である。次年度からはひとりひとりに端末が配付されるのにあたり、スタディサプリの導入に関して職員研修も行われた。各科各教科各文分掌等での積極的な活用が見込まれる。 |
| Ⅴ　開かれた学校づくりに努めていますか。 | １１　家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。 | ⑮　PTA行事等を開催する際には、感染症防止対策を整え、生徒・保護者及び職員の安全確保に留意したい。 | ⑮　情報提供では配布物等の精選に努め、メール配信等メディアを活用したい。<br>行事開催可能な場合には、消毒薬・マスクの準備、パーソナルディスタンスの確保に留意する。 | D | — | 入学式以降、PTAに関わる行事はすべて中止となっており、今後代替案を模索し、今年度の保護者の方々の記憶に残せる行事を検討したいと考える。 | D | D | PTAに関わる行事は全て中止となり、会員及び役員の方々には残念な一年となった。<br>学年保護者会については、修学旅行説明会（2年）は実施したが、3年の教習所説明会については3者面談を代用するなどの対応をとることとなった。 |
| | | ⑯　「学校の様子がよく分かる」と評価する保護者が80%となるよう、日頃の学校行事、各科の情報発信を行う。 | ⑯　吾妻中央高校の姿を情報発信し、保護者や地域住民がＨＰを見て、学校の様子が分かるようにする。 | B | B | 学校の様子が「よくわかる」「だいたいわかる」と答えた保護者が、１年生87%、２年生83%、3年生87%であった。今年度は新型コロナウィルスの影響で各種行事が中止となり掲載できないが、各科の授業風景を中心に引き続き情報発信していきたい。 | B | B | 本校からの情報発信（HPなど）により、よく分かるという保護者が１４%、だいたい分かるが７２%であり、８６%の保護者が学校の様子を把握できている状況である。HPの他にも、新聞やTV等のメディアによる情報発信ができるような策を考えていきたい。 |